

● シラバス

科 目	時間数	授業全体の内容の概要	修業修了時の達成課題(到達目標)
人間の尊厳と自立	5	人間の尊厳の保持と自立 利用者の権利擁護	尊厳の保持、自立の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本理念を理解している。
社会の理解 I	5	介護保険制度	介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。
社会の理解 II	30	社会と生活のしくみ	家族、地域、社会との関連から生活と福祉を捉えることができる。
		地域共生社会の実現に向けた制度や施策	地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得している。
		社会保障制度	社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得している。
		障害者総合支援法	障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。
		介護実践に関連する諸制度	成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。
介護の基本 I	10	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士の法的な定義や義務を踏まえ、介護予防や看取り、災害時等における介護福祉士の役割を理解している。
		尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開	個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。
		介護福祉士の倫理	介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。
介護の基本 II	20	介護を必要とする人の生活の理解と支援	介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。
		介護実践における連携	チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得している。
		介護における安全の確保とリスクマネジメント	リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得している。
		介護従事者の安全	介護従事者の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得している。
コミュニケーション技術	20	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション	本人・家族との支援関係を構築し、意志決定を支援することができる。利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。
		介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション	チームマネジメント(組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ・フォロワーシップ等)に関する知識を理解し、活用できる。状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。

生活支援技術 I	20	生活支援とICF	生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。
		ボディメカニクスの活用	ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。
		生活支援技術の基本	自立に向けた生活支援技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を習得している。
		環境整備、福祉用具活用等の視点	居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の生活環境を整備する視点・留意点を理解している。
生活支援技術 II	30	利用者的心身の状態に合わせた生活支援技術 環境整備、移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具等の活用	以下について、利用者的心身の状態に合わせた、自立に向けた生活支援 環境整備、移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具等の活用
介護過程 I	20	介護課程の基礎的知識	「介護過程」の目的、意義、展開等を理解している。
		介護過程の展開	介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。
		介護過程とチームアプローチ	チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種の役割を理解している。
介護過程 II	25	介護過程の展開の実際 利用者の状態(障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等)について事例を設定し、介護過程を展開させる。 観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等についても考察させる。	情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。
介護過程 III	45	介護過程の展開の実際 多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識・技術を総合的に活用した分析力・応用力を評価する。 介護技術の評価 介護技術の原理原則の習得・実践とともに、知識・技術を総合的に活用した判断力・応用力を評価する。	実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に修得し、活用できる。知識・技術を総合的に活用し、利用者的心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護(アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等)を提供できる。介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種・他機関との連携を行うことができる。知識・技術を総合的に活用し、利用者的心身の状況等に応じた介護を行うことができる。
こころとからだのしくみ I	20	介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解 移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等	介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を習得している。

		人間の心理	人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を習得している。
		人体の構造と機能	生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を習得している。
こころとからだのしくみⅡ	60	身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護における観察・アセスメントのポイント、連携等の留意点 移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、休息・睡眠、人生の最終段階のケア	身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、観察・アセスメント、関連する職種との連携が行える。
発達と老化の理解 I	10	老化に伴う心の変化と日常生活への影響 老化に伴うからだの変化と日常生活への影響	老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。
発達と老化の理解 II	20	人間の成長・発達 老年期の発達・成熟と心理 高齢者に多い症状・疾病等と留意点	ライフサイクル各期の発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。 老年期の発達課題、心理的な課題(老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解している。 高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。
認知症の理解 I	10	認知症ケアの理念 認知症による生活障害、心理・行動の特徴 認知症の人や家族へのかかわり・支援の基本	認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。 認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 認知症の人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。
認知症の理解 II	20	医学的側面から見た認知症の理解 認知症の人への支援の実際	代表的な認知症(若年性認知症を含む)の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。 認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、本人主体の理念に基づいた支援ができる。地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。
障害の理解 I	10	障害者福祉の理念 障害による生活障害、心理・行動の特徴 障害のある人や家族へのかかわり・支援の基本	障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。 障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 障害のある人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。
障害の理解 II	20	医学的側面からみた障害の理解 障害の特性に応じた支援の実際	様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を習得している。 障害の特性、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。

医療的ケア	50	医療的ケア実施の基礎 喀痰吸引(基礎的知識・ 実施手順) 経管栄養(基礎的知識・ 実施手順)	医療的ケアを安全に実施するための基礎的知識について理解している。 医療的ケアに関する法制度や倫理等を理解している。 感染予防、安全管理体制等についての基礎的知識について理解している。
医療的ケア[演習]	15	医療的ケア演習	介護職としてたんの吸引という医療行為をするための制度上のしくみを理解できる。たんの吸引に必要な物品をそろえられ、適切に扱える。たんの吸引の実践において、適切な手順で行うことができる。 経管栄養の実施の流れを理解し、実践に必要な技術が適切にできる。 経管栄養に必要な器具・器材のしくみと清潔の保持を理解し、適切に扱える。 経管栄養の手順と評価について理解できる。 救急蘇生法や救命処置の必要性・手順を理解し、適切に実施できる。